

1. 調査報告概要表

作成日 平成22年2月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1072400326
法人名	株式会社オギノ電子工業
事業所名	グループホーム ハーモニー
所在地	群馬県甘楽郡下仁田町馬山 2495-1 (電話) 0274-60-3041

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成 21年 12月 1日

【情報提供票より】(21年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 86歳	最低 78歳	最高 92歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下仁田厚生病院 大沢クリニック ひらやなぎ歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

共用空間は明るく開放的で、窓からの景観からは居ながらにして四季折々の季節の移ろいを感じる事が出来、自然に恵まれた環境に立地しているホームである。管理者・職員は共に利用者の思いやその人らしさを大切に考えた支援に取り組んでおり、一人ひとり自由な雰囲気の中で日々の生活を営んでいる。利用者がベランダに出て職員について何かこそごと話している様子が見られる等微笑ましい光景が見られる。介護計画等も職員に分かりやすいように工夫されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果を踏まえて話し合ったが、職員を育てる取り組みについては法人の新施設建設のため、管理者のみの研修会参加となっている。同業者との研修についてはレベルアップ研修に参加したり、他のグループホームからの受け入れをする等、改善に向けた取り組みが行われている。入浴を楽しむことの出来る支援については前回と同様、改善への取り組みは見られない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に自己評価の内容を知らせ、前回の評価を参考にしながら、職員の意見を取り入れて、管理者がまとめたものである。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。事業所からは外部評価の結果や利用者の状況等を報告し、メンバーとは意見交換をしたり要望を聴いている。事業所からの災害時協力依頼について話し合わせ、地域住民の緊急連絡網が作られた。会議の結果は「お便り」で家族に報告している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等には意見・要望を管理者や職員に気軽にどんなことでも話して欲しいと常に伝えている。食事の量や衣服に関しての要望があり、家族と話し合ってサービスの提供に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>今年度はインフルエンザ流行の影響で地域との交流は例年より少なかったが、地域で行われるどんど焼きに利用者や職員がお団子を作って参加した。運営推進会議のメンバーの仲介で保育園児の訪問やフラダンスの慰問等の交流の機会を持つことが出来た。又、近隣の人が近くを通った時に立ち寄ってくれる等自然な形での交流もみられる。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての意義を職員全員で確認し、事業所独自の理念「私たちは地域と共に笑顔あふれるグループホームをめざしています」を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りや会議の時に理念に触れて話し合っている。特に申し送りは毎日9時と午後4時に時間をかけて行い、全職員が理念を共有し、その実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年度はインフルエンザ流行の影響で地域との交流は例年より少なかったが、地域の行事のどんど焼きに利用者職員がお団子を作って参加したり、推進会議の委員等の仲介で保育園児の訪問やフラダンスの慰問等があり、これらの交流の機会を大切にしている。又、近隣の人が近くを通った時に立ち寄ってくれる等、自然な形で交流もみられる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価の内容を知らせ、前回の評価を参考にしながら、職員の意見を取り入れて管理者がまとめたものである。前回の外部評価の結果を踏まえて、出来ることから取り組む努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されているが、行政からの参加はない。事業所からは外部評価の結果や利用者の状況などを報告し、委員等と意見交換をしたり、要望を聴いている。事業所からの災害時の協力依頼に対して話し合いがもたれ、地域の緊急連絡網が作られた。会議の結果はお便り(年に4回発行)で家族に報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者が町の担当者とは頻繁に行き来し、情報交換や相談をしてサービスの向上に取り組んでいる。又、お便りを持って訪ねホームの実情などを知らせている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等には毎月請求書と一緒にホームだよりや写真を送ると共に、家族等の訪問時には健康状態や日頃の様子を報告している。利用料金は毎月現金での納入となっており、来訪時には出納帳の確認をお願いしている。状況等により電話で報告することもある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には意見・要望を管理者や職員に気軽に、どんなことでも話して欲しいと常に伝えている。食事の量や衣服に関しての要望があり、家族と話し合ってサービスの提供に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は無かったが、入職者が1名あり、ホーム便りで家族等には報告している。新入職者に対しては先輩職員が早・遅・日勤について同行指導し、夜勤の場合は管理者が3～4回共に業務につき利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新年度から法人が複合型介護施設を開設するため管理者の研修が必要となり、職員が研修に参加する機会がなかった。研修の内容は申し送り時に報告している。	○	新しい施設を開設するという事情により、職員の研修会出席の機会は無かったが、今後は職員の質の確保・向上に向けた育成のためにも、職員が研修を受ける機会を確保して欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡サービス協議会に加入しており、グループホーム大会や会議等に出席している。レベルアップ研修に参加し他のグループホーム職員の受け入れをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望がある場合は、事業所から訪問したり、本人・家族等に来訪してもらって、ホームの説明をし、本人や家族の思い等を聴き、納得してからの利用をお願いしている。希望があれば体験入居することも出来る。入居当初は出来るだけ利用者に寄り添い、言葉を交わす機会を多く持ち、早く馴染めるよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者にはそれぞれが出来ることを役割として持ってもらう、共に生活していることを実感する機会を作っている。職員は利用者から昔の行事の話の聞いたり、裁縫を教えてもらう等、学ぶことが多く、感謝の言葉を伝えている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での利用者の言動等から希望や意向の把握に努めており、それらの情報は申し送りの時に伝えて、全職員が共有している。現在は殆どの利用者が自分の思いを表現することが出来る。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からは面会時に、利用者からは日頃の会話からそれぞれの意向を聴き、介護記録や職員の意見を参考にして介護計画を作成し、家族に確認印をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直しをしているが、状態に変化が生じた場合は随時、計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望に応じて、病院受診や買い物支援をしている。子供の家に行きたいとの要望で一緒に出かけることもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族同行の受診となっているが、家族の状況により職員が対応し、結果を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の重度化した場合の指針として「看取りに関する基本的指針」を作成し、明文化しており、家族等には説明してある。状態の変化があるごとに家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い支援に繋いでいくことを全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送り時や会議の時にプライバシーに関しての職員の意識向上を図ると共に、日々のかかわり、特にトイレ誘導や介助の時に配慮するよう話し合っている。記録文書の保管や管理、個人情報の取り扱いに関しては徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には利用者中心の生活を支援しているが、食事の時間とテレビ観賞の時間は大まかに決めている。朝食後の約30分間は利用者と職員がそろって、掃除・洗濯物干し・草花の水やり等を行い、その後は各自がテレビを観たりおしゃべりする等自由な時間を楽しんでいる。就寝や起床の時間も利用者のペースに合わせた対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は力量に応じて職員と一緒に食事の準備をし、自分の食事をテーブルに運び、職員と一緒に食事を摂り、片付け等の一連の作業も行っている。納涼の際にはお酒が用意され、楽しみの一つとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回(月・金)、11:00～12:00と13:00～15:00に入浴支援を行っており、入浴の順番は全員が公平になるよう配慮している。入浴拒否の方に対しては言葉かけの工夫等により、入浴を促している。	○	前回の外部評価を踏まえて話し合いを持ったが、改善に向けた取り組みは見られない。利用者の希望やタイミングに合わせていつでも入浴の出来る体制作りを再度検討することを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・洗濯ものたたみ・配膳・下膳・プランターの水やり・野菜の下ごしらえ・食器拭きなどを役割としてお願いし、共に生活していることを実感してもらっている。ベランダに出て職員のことを何かと話しては気晴らしをしている姿を見かけることもある。フラダンスの慰問・ドライブ・お花見・ゲーム・カラオケ・出前を取る等の楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調に合わせて、散歩やドライブに出かけたり、ベランダでの外気浴をするなど、出来るだけ屋外に出て気分転換をはかってもらうようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員は鍵をかけることの弊害は理解しているが、家族等の声や運営推進会議での意見等もあつて、現在は利用者の安全性を考慮して鍵をかけている。	○	鍵をかけることの弊害について再度話し合いを持ち、職員の見守りや利用者の外出の傾向をつかむことにより、施錠が常態化しないよう検討して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、昼を想定して事業所が独自で自主訓練を年に1度開催している。	○	災害はいつ、どの時間帯に起きるか分からない事を踏まえて、消防署の協力により、夜間想定も含めて年に2回の避難訓練を行って欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況については食事チェック表や介護記録等に記入し申し送りで話し合い、職員は共有している。食事摂取量についての記録はあるが、水分の摂取量の記録はしていない。	○	健康を維持するために必要と思われる大まかな水分の摂取量を決めて、一日の摂取量を把握し、健康維持のために水分の摂取量を記録して欲しい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、共有空間は明るく開放的でフロアには利用者の写真やクリスマスの飾りつけをするなど、季節感もあり、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はそれぞれ使い慣れた筆筒や衣装箱・テレビ・時計・歩行器・洋服掛け等を持ち込んでおり、個別性のある居室が工夫されている。		